

# 平成 31 年度病害虫発生予察 技術情報 第 1 号

平成 31 年 4 月 26 日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

## ピーマン黄化えそ病 (TSWV) について

本年度はピーマン黄化えそ病 (TSWV) の発生が早く、昨年度は未発生だった地域でも発生が確認されています。この病気は *Frankliniella* 属のアザミウマ類 (ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ) がウイルスを媒介します。本病の発生を防ぐために媒介虫であるアザミウマ類の防除を徹底して下さい

### 1 病徴及び伝染方法

#### (1) 病徴

新芽や脇芽が黄化し、萎縮します。また、輪紋症状やモザイク症状、えそ症状も見られます。(写真 2. 3. 4)。

#### (2) 伝染方法

TSWV はミカンキイロアザミウマ (写真 1) とヒラズハナアザミウマが媒介します。

#### (3) 宿主範囲 (大分県の主要品目)

ピーマン、トマト、ナス、キク、トルコギキョウ、リンドウ等が感染します。

## 2 防除上注意すべき事項

- (1) 発病株は抜き取り、ほ場外に持ち出して焼却または埋没処理して下さい。  
ほ場周辺に放置すると伝染源となるので速やかに処理してください。
- (2) 栽培終了後は施設を密閉して蒸し込み、アザミウマ類を死滅させて下さい。  
また、作物残渣も(1)に準じて処理してください。
- (3) 施設では開口部を防虫ネットで被覆し、アザミウマ類の侵入を防ぎます。  
望ましい防虫ネットの目合いは0.8mm以下です。
- (4) ほ場内および周辺の雑草はアザミウマ類の増殖源となるため、除草を徹底して下さい。アザミウマ類は風で移動するため、とくに作物の風上の除草を心がけて下さい。除草を行うと、雑草に寄生していたアザミウマ類が作物に移動することがあるため、除草と防除は同時に行ってください。またほ場周内や周辺に観賞用花き類等を植えないで下さい。
- (5) TSWV は汁液接種をすると発病するので汁液伝染する可能性があります。  
そのため、発病株の抜き取りなどは作業の最後に行うとともに手洗いを励行して下さい。
- (6) 青色または黄色の粘着トラップを設置して、ミカンキイロアザミウマおよびヒラズハナアザミウマの早期発見に努めて下さい。
- (7) ミカンキイロアザミウマおよびヒラズハナアザミウマの薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避けて下さい。使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照して、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を遵守して下さい。特に同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛けて下さい。

(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>)



- (8) 混合剤の場合、異なる商品名で同一の薬剤成分が含まれる場合があるため、「成分総使用回数」を十分確認した上で使用して下さい。



写真 1. ウイルス媒介虫のミカンキイロ  
アザミウマ成虫 (体長 1.0~1.5mm)



写真 2. 輪紋症状



写真 3. 小斑点



写真 4. 黄化、萎縮、モザイク、  
えそ症状

写真 1 花きグループ花きチーム原図

写真 2. 3. 4 病害虫対策チーム原図